

第 269 回一関市教育委員会定例会 会議録

1 開催日時

開会 令和6年10月23日(水)午後1時30分

閉会 令和6年10月23日(水)午後3時10分

2 会議の場所

一関市役所花泉支所東大会議室

3 出席者

教育長 時 枝 直 樹

委員 伊 藤 一 志

委員 佐 藤 一 伯

委員 桂 島 加奈子

委員 大 浪 友 子

4 会議に出席した関係者及び職員

教育次長兼教育総務課長 千 葉 せつ子

副参事兼学校教育課長 八 木 浩 司

副参事兼文化財課長兼骨寺荘園室長 氏 家 克 典

一関市博物館次長 佐々木 修 路

いきがづくり課長 伊 藤 信 子

教育総務課長補佐兼庶務係長 宮 野 真知子(記録)

5 議題及び議決事項

教育長職務代理者の指定について

6 報告

(1) 一関市議会定例会 113 回 9 月通常会議(一般質問)の状況について

(2) 行事報告及び行事予定について

7 その他

(1) 学校給食について

(2) 令和6年度学校教育行政の重点について(ことばの力を育てる教育)

(3) その他

8 会議の議事

○教育長 ただいまから第269回一関市教育委員会の定例会を始めます。よろしくお願いいたします。

教育長職務代理者の指定について

○教育長 2の議事に入ります。議事日程第1、教育長職務代理者の指定について、事務局からお願いします。

教育次長。

○教育次長 (説明)

○教育長 では、ただいま説明ありましたように、教育長の指名ということですので、私の方から指名させていただきます。教育長職務代理者につきましては、伊藤一志委員にお願いしたいと思います。また、突然で申し訳ないですが、よろしくお願いいたします。これについて皆様から特にご質問等ありますか。よろしいでしょうか。それでは、伊藤委員、よろしくお願いいたします。

報告(1) 一関市議会定例会113回9月通常会議(一般質問)の状況について

○教育長 3の報告に入ります。(1)一関市議会定例会113回9月出場会議一般質問の状況について事務局からお願いします。

○教育次長 (説明)

○教育長 ただいま報告のありました9月通常会議一般質問の状況について皆さんから何か質問等ないでしょうか。

桂島委員。

○桂島委員 虹の学園についてですが、実際運営されていて、生徒などは途中から入ることはできるのですか。実際人数が増えていっているのでしょうか。これに対する質問にはならないと思いますが、実際どんな感じなのか、もし何か情報があれば教えてください。

○教育長 学校教育課長。

○学校教育課長 途中からでも行くことは可能になっております。人数が増えていっているというよりは、どちらかというところでエネルギーを蓄えて、次の学校に繋がる動きになって、だいぶ人が少なめになってきたような話は聞いておりました。教育委員会も連携しておりますので、来週以降にお邪魔する予定を今日代表理事と喋っていたところです。

○教育長 教育次長。

○教育次長 虹の学園に関しては、今回質問があったように議員がかなり関心を持ってお

りまして、今月の18日ですが、教育委員会を所管する教育民生常任委員会の会議がございまして、その視察として虹の学園の方に委員の方々が行って、意見交換や現状を視察してきているようです。その結果についての共有はありませんが、現場の方にも委員の方が足を向けているという風なところを、共有させていただきます。

○教育長 虹の学園に在籍している児童生徒数、概数でいいので何人ぐらいかわかりますか。

学校教育課長。

○学校教育課長 今現在で抑えている数、若干の変動はあるかもしれませんが、9月の頭段階で、小学生11人、中学生11人の22人が一関市に住所を置くお子さんであると押さえておりました。

○教育長 桂島委員。

○桂島委員 一関市以外の方もいらっしゃるということですね。

○教育長 学校教育課長。

○学校教育課長 そのとおりです。

○教育長 よろしいでしょうか。ほかにございますか。

伊藤委員。

○伊藤委員 この質疑の中で、私がどうしても疑問に思うことがあります。議会での質問は、現在起こっている状況に関する質問で、こういう状況だっていうことも説明に終始しているのですが、前からこの問題についてはこの会議で何度も何度も話をしました。私がいつも思うには、結局できてしまったならばその対応、今起こったことにする対応しか、現状に考えられないような状況だと思えます。私が思うには、どこにその大きな要因があるのかと思うのは、学校に入ってからではないような感じがします。前にもお話したように、親御さんが子育てに向き合って真剣なる子育てをしているのかどうか、その辺あたりが本当に大きな要因になってきそうな感じですが。この中でも読ませていただいて、そのとおりですけれども、学校に居場所を作る。もちろんそういうことが解決に繋がると、そのとおりです。お子さんたちは小さい時からちゃんと親御さんの養育の元で、育っているわけですけれども、家庭教育の中のそういうものは本当に充実したのかどうか。あるいは親御さんがきちんと向き合って養育する姿勢があったのかどうか。他人任せにしているのかどうか。そして家庭にその子どもたちの居場所がしっかりあるのかどうか。その辺あたりにどうしても遑っていきそうな感じがします。ですからその辺あたりも、答弁の中で可能であれば、よく精査をしてお答えをしていただければありがたいと思います。これだと、たぶん質問された議員がこの回答で納得されているのかどうか、私は疑問に思ったりしますし、私自身もこの会議の中で何度もお話しているように、途中からぽっと出

たことに対する、その事案に対する解決法をどうしたらいいかというような形ではないような感じがします。それ以前に大きな要因があるような感じがします。ですから、その辺あたりを今後も私たちがこう見つめていって、そして社会的な教育の充実の中の家庭教育の充実に焦点化をして、もう少しこのことについて、真剣に投げかけていくということが大切な感じがします。これはあくまでも意見です。

○教育長 学校教育課長。

○学校教育課長 ありがとうございます。生得的なものを含めて家庭に起因するもの、それから集団生活の中で不適応を起こしてしまったもの、様々な要因がありますが、今委員からおっしゃられたものも中に含まれていると思われまますので、十分に背景を含めて事情については分かった上で家庭支援も行い、そして情報等も共有しながら、不適応を起こさないような子どもたちが1人でも増えていくようにもっていきたいと思っております。

○教育長 この点について私からもですが、教育委員会として不登校の問題を考える時には、市で設置している小中学校について、その中でどのようにすれば改善できるのかという仮説を立てて、実行して指導方法を改善していくということが大前提にあります。その中で、今不適応を起こしている子どもに対してもですが、これから不適応を起こさない、その未然防止の部分も含めてになりますので、そこは今まで学校教育の中で未然防止という視点で中心に考えていましたけれども、今後、校長会議等で社会教育の中で言えば子育て支援とか、教育振興運動等も使いながら、小中学校からどのように家庭教育に対してアプローチしていくかという視点を持っていくことが今大切だということを感じましたので、そういう視点でも進めていきたいと思っております。ありがとうございました。

ほかにございますか。

よろしいでしょうか。それでは、報告(1)、一関市議会定例会 113 回 9 月通常会議一般質問の状況については終了いたします。

報告(2) 行事報告及び行事予定について

○教育長 (2)行事報告及び行事予定についてです。最初に行事報告を私の方から報告させていただきます。資料No.2を見ていただきたいと思います。

前回9月20日が教育委員会の定例会でしたので、この後の部分についてお話をさせていただきます。

21日、合同吟道大会、3つの団体が合同となったものですが、一関市の文化祭文化部門として一関文化センターで開催されました。今回、教育委員会で作成している言葉のテキスト「言海」を取り上げて和歌や漢詩を吟じる発表もありましたので、来賓として出席

して参りました。

22日、博物館の特別展、「江戸の大名屋敷 一関藩・仙台藩」の展示解説会に出席してきました。江戸時代、各大名は幕府から妻子の江戸居住と参勤交代による江戸での生活を命ぜられております。一関市は、当時は仙台藩とその支藩、一関藩の領地であったため、現在の東京の汐留駅付近に仙台藩の屋敷跡、その近くにある愛宕下という場所に一関藩の屋敷跡があって、注目される遺構や遺物から当時の暮らし、生活の様子が展示されているもので、私自身も大名家の華やかさや当時の生活を知ることができる貴重な展示会であったなと思っております。特別展は11月24日まで開催されていますので、ご覧いただければと思います。

25日、第3回市校長会議がありました。私からは、前期の課題である全国学習定着度状況調査結果からの学力向上、不登校児童生徒への対応、特別支援教育、中学校の部活動にかかる校種間の連携、岩手県クラウド版校務支援システムの運用、博物館の特別展についてのお話をさせていただきましたところでした。

同日、弥栄小学校の総合訪問が行われました。委員の皆様にも出席いただきましてありがとうございました。

27日、第56回岩手県中学校技術・家庭科教育研究大会一関大会が一関文化センターで行われ、出席してきました。公開授業は、東山中学校で技術科、磐井中学校で家庭科が行われました。現在、技術・家庭科は非常に授業時数が少なくなっておりますので、小規模校や中規模校の中学校では免許外の対応やきめ細かな指導で対応の講師対応が多いので、貴重な研修の機会になったと思います。

28日、ITキッズファイナル。ITキッズに参加している小学校の5年生、6年生を対象としたこのプログラムの最終回の7回目を千厩小学校で行い、閉校式に出席してきました。参加者は20名の小学生でした。当日、前に行われたタイピングコンテストの表彰も行われ、パソコンの入力の速さも身につけていることを感じました。この時期にICTを学ぶことの効果は大きい、そういう授業であったと思います。

同日、第43回の一関国際ハーフマラソン招待選手のレセプションがホテル松の薫で行われました。JR東日本東京メトロ女子駅伝部、駒沢大学、東洋大学、TAMA、あと柏市の陸上競技協会に所属する招待選手のほか、交流関係のあるハワイや吉川市からの出席もありました。一般参加者も当日は多くエントリーされて、天候に恵まれた大会となったと思います。

29日、骨寺村荘園稲刈体験交流会がありました。約160名の方に参加いただいたものです。米オーナーの方、大学の学生とか市の職員、地元の方々、そして巖美小学校、巖美中学校の児童生徒も参加してもらいました。今後も骨寺村荘園遺跡をみんなで守っていこ

うという雰囲気を感じた交流会でした。

30日、市長、副市長と給食費の件で協議を行いました。現在の物価高の状況の中で給食費をどのようにしていくかということは非常に大きな課題となっております。令和6年度は、昨年度に引き続き物価高騰分は市から補填しておりますが、継続することができるかどうか継続的に協議をしております。様々な対応が考えられますので、保護者に学校給食に関するアンケートを実施することをこの協議の中で決めたところです。本日の定例会のその他のところでも、給食費について説明をいたします。

10月2日、つくばの高エネルギー加速器研究機構、KEKを視察してきました。これは、一関市では本市を含む北上高地がILCの候補地となっており、その実現に向けた取り組みを市として行っていることから、市の部長級の管理職が国内最大の加速器実験研究施設であるKEKを視察しているものです。教育委員会からは、学校教育課長も参加いたしました。実際の施設を見ることによって、ILCそのもの、また設置された場合の産業や経済の効果等の理解が一層と深まった研修となりました。

3日、猿沢小学校の総合訪問が行われました。これも委員の皆様にも出席いただき、ありがとうございました。

5日、藤沢の社会福祉法人ふじの実会の創立40周年記念式典が藤沢文化センター縄文ホールで行われました。ふじの実会は1984年に設立されて、障害者支援施設を運営して、地域に目指した福祉活動を展開しております。記念行事としてこの日、盛岡、宮古、東京を拠点に活動している混声合唱団イーハトーヴシンガーズのコンサートも行われました。

6日、花泉マラソンの瀬古利彦杯の開会式に副大会長として出席してきました。この大会は平成2年に花泉運動公園多目的競技場の完成を記念して始まったもので、早稲田大学の競走部がこの年から花泉町での合宿を始めたご縁から、当時早稲田大学の競走部のコーチを務めていた瀬古利彦様の名前をいただき、花泉マラソン瀬古利彦杯としたものです。今年の大会にはご本人も出席して盛り上げていただきました。

10日、平泉幼稚園の公開に出席してきました。平泉町では幼稚園を教育委員会が担当しており、教育委員会指定の主体的、対話的で学び深い学びを培う保育を主題とした公開でした。一関市内の幼稚園からの出席もあり、たくさん研修のできる公開であったと思います。

11日、幼少中高特高専大の学校運営委員会が行われました。12月に講演会を行う予定で、その運営についてが主な話題でした。12月の講演会の講師は笠井健さんという方で、北良株式会社の代表取締役社長で北上の方です。この方は「災害に強い社会を作る」をテーマに、電源とか車両とか水とか酸素などの分野で、災害支援に役立つ機器やシステムの開発を行うプロジェクトを立ち上げ、能登半島の支援にも当たられている方です。社会貢

献や災害支援を大切にされた会社経営の経験から、キャリア教育の視点で有意義なお話になるのではないかと期待しております。

16日、第2回就学支援委員会が行われました。今回は小中学校に在籍している児童生徒についての就学意見を決定する委員会で、ここ2、3年で対象となる子どもたちの人数が一番多い状況となりましたので、午前、午後の1日開催で行ったものとなります。

18日、先ほど教育次長の方からもお話がありましたが、教育民生常任委員会が花泉支所で開催され、学校給食に関する保護者アンケートについての説明を行いました。

19日、大原小学校の創立15周年記念式典が開催され、出席して参りました。平成22年4月1日に、旧大原小学校と旧内野小学校の2校が統合して、現在の大原小学校が創立されたものです。当日、初代校長も出席いただきまして、第1回の卒業式を迎える前に、東日本大震災が発災したことや、その中で子どもたちは学校生活を前向きに送ったことの話がありましたし、第1回の卒業生代表の青年が、開校当時の学校の様子や現在在籍する子どもたちへの期待のお話をいただきましたので、児童や保護者、地域の方、教職員にとって意義のある式典であったのではないかと思います。

同日、一関文化センターで東北地区和算研究交流大会が岩手県和算研究会創立30周年記念大会と併せて開催され、祝辞を述べて参りました。和算については、花泉町に和算家の千葉胤秀氏が広く和算を広めた歴史もあって、一関市博物館で一関と和算の常設展示をしていることや、博物館事業として「和算に挑戦」を行っていることから、非常に深いつながりがあります。また、これまでの市の事業では、岩手県和算研究会からたくさんの協力をいただいているところです。

20日、一関の大町で、一関商工会議所青年部が主催するジュニアエコノミーカレッジ in いちのせきが、福の市の会場で行われました。9月に6チームの子どもたちが販売する計画を示す企画を行いました。今回は実際に販売を行ったものです。キャリア教育として位置づく参考になる取り組みと感じたものです。

行事報告については以上です。何かご質問ありますか。よろしいでしょうか。

それでは、行事予定についてお願いいたします。

教育次長。

○教育次長 (説明)

○教育長 教育委員会の定例会ですけれども、11月27日でよろしいでしょうか。

では、よろしく申し上げます。

11月20日の滝沢小学校の学校公開、21日の一関中学校の学校公開の対応も可能な限りよろしくお願ひしたいと思ひます。

その他の行事予定について、何か質問ござひますか。

桂島委員。

○桂島委員 確認ですが、10月29日の8時30分から8時40分、マークがついているのですけれども、こちらは教育委員といっても佐藤委員でよろしいですね。

それから11月に毎年、総合教育会議をやっていたと思いますが、予定も入ってきているので、わかった段階で教えていただけると助かります。

○教育長 現在の予定では、12月18日水曜日、14時から15時30分の予定で、場所は一関保健センターです。

行事予定についてほかにございますか。よろしいでしょうか。

それでは、これでよろしくお願いします。

3報告については以上で終了いたします。

その他(1) 学校給食について

○教育長 4のその他に入ります。(1)学校給食について事務局からお願いします。

学校教育課長

○学校教育課長 (説明)

○教育長 ただいま事務局から説明がありました、学校給食について何かございましたらお願いします。

伊藤委員。

○伊藤委員 学校給食に対する保護者の期待も非常に高いものもあると思います。値段だけではなく。例えば両親が仕事で、朝十分な朝食を摂らない子どもたちがいる。摂ることができない、用意もできない家庭があるということも聞いているのですが、現在朝ごはんを食べてこない児童生徒はどれぐらいいらっしゃるのか、もし確認していらっしゃるのであればお聞かせ願いたいと思います。

○教育長 学校教育課長。

○学校教育課長 今ここに数字を持ってきていないので、正確な数字はお知らせできませんけれども、全国学習状況調査などにも朝食の設問があったかと記憶しておりました。その中からの数字の把握というのは可能ではあります。

○教育長 伊藤委員。

○伊藤委員 市で把握しているのは、子どもたちは朝食を食べてきているのでしょうか。

○教育長 学校教育課長。

○学校教育課長 県の平均よりも一関の状況の方が良かったと記憶しております。

○教育長 よろしいでしょうか。ほかにございますか。

桂島委員。

○桂島委員 原材料が上がっているというのももちろんそうだと思うのですが、農家の訳あり野菜でもないですけれども、ちょっと形良くないなどで廃棄したりという、せっかく食べられるのに埋めたりするという野菜というのを活用することは、公的なところではなかなか難しいものなのかなと思ったのですが、捨てたり埋めたりするのでしたら、栄養的にはしっかりしたものなので、お子さんたちにそれこそ地産地消で無駄なく使う。農家でも廃棄のための処分代にもお金がかかっているのです、農家にとってもいいかなと思います。ただ契約などもあると思いますし、先に献立を作らないといけないと思いますので、その野菜とかの確保っていうのがしっかりしないと、献立にも影響が出るので栄養士の方たちも困るだろうなという事情もあると思うのですが、そういうのを活かせるのであればどうなのかなと思いました。

○教育長 学校教育課長。

○学校教育課長 地域ごとに例えば産直などと契約をすることによって、数量の調整をかけて、場合によってはスーパー等からも流していただいて、季節的なもの、気候的なもので融通が効かないものについては、そういう部分も努力していただいて、給食センターの方に搬入いただいているという話としては伺っていたところでした。

○教育長 教育次長。

○教育次長 今、学校教育課長からお話のあったとおり、産直などから調達をしているところですが、私も4月にこちらに来た時に、訳あり野菜とかそういったものを活用したらいいのではないかなと思ったのですが、現実的に給食センターの調理器具ですとかそういったものは、一定の規格のものを通してカットする。それを踏まえて栄養計算ができてということで、不揃いになると栄養計算が正確ではないというところもあり、活用はしたいけれども、実際栄養計算をした時に、クリアしなければならない基準を満たすために、やむを得ずある程度の規格品を使わなければいけないというところの制限もあったりするようです。ただこれからの給食の在り方ということで、何ができるのかというのは、今後ますます検討していかなければいけないところだなというところがありますので、そういった栄養価、これ以上の栄養をとる基準を超えたものを提供するために、給食センター、栄養士が苦勞してクリアできる範囲で、いろいろ調達しているという実態だけのご理解いただければなと思っておりました。

○教育長 よろしいでしょうか。

桂島委員。

○桂島委員 もちろん基準も決まっているし、も工場で処理するというのも決まっていると思うのですが、そこで不揃いなものが来ると今度は人の手が入っていきなきゃいけなくなって、そのマンパワー的な問題というのにも関わってくると思うのですが、SDGs

を謳っているんで、そこの部分がクリアできれば、総合的に地域にもこの給食費にもいい部分があるので、その問題点となるものをクリアできるというところを考えていくと有益になるのかなと思います。産直とも契約されているということもあり、すごく皆さん努力されているのだなというのは本当によくわかったので、今後の一意見として捉えていただければと思います。

○教育長 教育次長。

○教育次長 ご意見ありがとうございます。ペースト化とか粉末にすればいいのかなという発想はあるのですが、それをどう栄養計算の中に入れていくかというのは、栄養担当の職員とかそちらの方との協議になってくるかなと思いますので、このままではなく何か前向きに検討できるものがあれば、ぜひ取り入れていくような努力をしていきたいと考えております。

○教育長 ありがとうございます。ほかにございますか。

伊藤委員。

○伊藤委員 40年前、私が現職で現場にいた時には、給食の時に食育というのは、あまり充実してなかった、やっていなかったような感じがします。私が心を痛めたのは、その当時中学校のちょうど成長期の子どもたちですけれども、特に女子がお弁当のご飯を残して、持ってきた食缶に投げていたのを見て、私も米作っているから、ものすごく心を痛めた経験があります。おかずも残したりして。ちょっと元気のある子どもたちとかですね、お腹を空かしている男の子たちは、俺にくれと言って食べている子もいましたけれども、残菜の量が非常に当時は多かったような感じがしました。現在は食育が充実しているし、こういう状況の中で子どもたちがお昼を楽しみにするというのを聞いたりしてましたので、残菜の状況なんかはどうなのかということをお聞きしたいなと思います。

○教育長 学校教育課長。

○学校教育課長 具体的な数については持ち合わせていないのですが、一定期間統一して残菜を確認する時期がありまして、それでは県よりも数字が少ない状態で、一関市は食育が現在進められているという状況にあります。

○教育長 よろしいでしょうか。ほかにございますか。

佐藤委員。

○佐藤委員 この物価高騰は、特にこのコロナ禍、それから国際的なイラクとロシア、あるいは様々な海外の状況の中で、小麦粉であったり様々なエネルギーの高騰で特にここ数年著しくなっておりますので、この令和以降保護者の方々の負担を抑えて物価高騰分を市が負担するという形でよく対応してきたのではないかなと思います。今回、アンケートを踏まえて今の物価高騰を踏まえたまず妥当な対応が望ましいかなというのが感想です

けれども、今回は市議会の質問には給食無償化等はありませんでしたけれども、よく議員の方からも度々その質問があって、もし実施するとなれば 3億から4億ぐらいかかる。また、今後のこういったエネルギーや物価の高騰を考えればもっとかかる可能性もあります。自治体によってはその実施できているところもありますけれども、やはりいろいろな観点で実際に給食費の無償化というのは難しいのだらうと思います。

私が一番気になるのは、子どもが1人、2人ぐらいまでであれば、家庭の給食費の負担が大変ではあるのですが、なんとか対応していくとしまして、子どもが3人、4人となった場合、それだけ給食費がかかっていく。それで何らかの形でお子さんの多い世帯には、例えば3人目、4人目のお子さんがある家庭には少し給食費の割引があるとか、そういった市の子育て支援の観点で、給食費無償化はできなくても何らかの対策ができないだろうかということは検討していただけないかなと思います。なぜ私がそれを思うかということ、よく給食無償化をとした場合、それはやっぱり国がやるべきだという意見がこの市議会の答弁でもあったかと思えます。国が給食費無償化とする、それで全国的に無償化になったとします。それは大変いいのですけれども、自治体の子育て支援にどれだけ頑張っているかという姿勢を見せる、その前に見せておくということが、一関市に住みたいとか、一関市では子育てのしやすい町だというPRの効果が私はあるのではないかと思います。ですので将来的に給食費等も国にもうちょっと支援してもらえる時代が来るのだと思うんですけれども、その間に他の自治体ではない魅力というんですか、それを市の予算の範囲で検討しておくということは、市の戦略としてあっていいのではないかと思うので、今回この給食費のアンケートを取って時代に合ったご負担をいただくにしましても、市の発展に貢献している家庭への支援、ご配慮あたりを考えていただくと、話題としても評価されるのではないかなと思うので、そこは1つご意見として申し上げたいと思います。

○教育長 学校教育課長。

○学校教育課長 ご意見ありがとうございます。子どもの数への配慮という観点での検討等については、特に具体的に行っておりませんでしたので、1つの視点をいただいたと思っております。今現在、世帯収入でもって要保護、準要保護のご家庭に対しては、給食費を全額市の方で支援するような形をとることをもってのご家庭支援というところで取り進めていくのが現状でございました。

○教育長 よろしいでしょうか。ほかにございますか。

大浪委員。

○大浪委員 まずアンケートについてご意見させていただきます。私が保護者の立場でこのアンケートをもらった時に、思うことを述べさせていただきたいのですが、この用紙をもらった時点で、値上げもしくは量の調整が必須な状態であるという、市の強い危機感を

保護者は感じると思います。その際に値上げだった場合、令和2年に値上げをされた時程度の値上げになるのか、もしくは値上げをしないで量の調整が行われた場合、どの程度量の調整が行われるのか、その目安がない中で、値上げがいいのか量の調整がいいのかと聞かれても、判断基準が乏しくて答えるのに少し戸惑いを得てしまうかと思いますが、可能な限りで目安を提示していただくということは、保護者にとって重要なポイントになってくるのではないかと思います。先ほど教育長にも伺いましたが、このようなアンケートを行うということは数多くあるものではないと聞きましたので、せつかくの機会ですので、保護者の方が給食に思われていること、自由記載という欄を設けて、普段思っていることを率直に聞いてみるというのも、貴重な1回のアンケートなので行ってみたらどうかと思います。

先日ある中学校に通う方に、PTA行事なのか執行部行事なのかちょっとわからないのですが、個人負担をして給食を試食させていただくという行事を行ったそうですが、やはり保護者の関心というのは、普段子どもたちが毎日食している給食というものがどういうものなのかということに、非常に強く興味を持っているのだなということ、父兄の話からもすごく関心があることなのだなということ、教育委員としても非常に強く思いましたし、以前も定例会の方でお話をさせていただきましたが、伊藤委員の話にもありましたが、やはりその量の問題がどうしてももったいないと感じてしまう。1つのパンだったら1つよりも半分に分かれていて、多い時に分けてあげられるような、そういう仕組みがあったら今の子どもたちもSDGsの考え方にも合致していいのに、残さざるを得ないっていうのは、少し給食としてどうなのかなということをお話しておりました。

○教育長 学校教育課長。

○学校教育課長 値上げする基礎的なお家の方のご意見を聞くことを目的とするアンケートではなく、今現在お家の方々の給食に対する関心を図るという意味でのアンケートとして取らせていただきたいというのがこの趣旨です。記載内容としては、確かに市の危機感と言いますか、このまま行くとかなり物価も高騰しているので、そのうち子どもたちに何らかの量的なもの、もしくは回数的なもの、もしくは金額的なもので対応が求められるような事態にも起こり得ますよということは、間接的には十分伝わるようなものにはなっているのかなと思っていました。先ほど自由記述の話もしていただいていたけれども、送るご家庭はPTA会員数でというのが基本でありまして、兄弟が同一校にいる場合は上の子、小中での場合は中学校の方でアンケートを取っていただくのですが、その基本数を出した時に、世帯数ですが5,000世帯弱ありまして、各学校に極力回答をお願いしますという対応を図って、できる限りの母数を増やすような形で組んで参りますので、今回は全部選択肢の中でやらせていただくことを趣旨としてございました。自由記載があっ

た場合はいろんな意見が出てくるかと思うのですが、その辺りについては、趣旨に沿ったものでいきたいなと思っています。

給食のカロリー計算については、1人当たりの摂取カロリーで算定しているので、主食のパンを分けるとかご飯を分けるといのは、その集団の結果で起こりえるものではありませんけれども、決して推奨できるものではないということをご理解をいただきたいなと思います。おかずのところが多い少ないの調整というのは配膳しているので、そこは十分考えてあげることができるものかなと捉えておりました。

○教育長 私の方からも補足ですけれども、今回のアンケートについては食材費等の高騰分と、高騰がどういう状況になるかというのが未確定の部分と、市から補填できるかどうかという部分もまだ未確定の状況があるので、値上げするとすればいくらぐらいを想定する、そうすると給食何回分であるということを示せば具体的なものになるのですが、その部分がまだ未確定な部分がありますので、補填することができれば、値上げは少なくとも回避できたりしますし、具体が欠けるという点については、そのとおりです。

もう1点は、給食について保護者の方あるいは学校の意見を広く求めるのは、給食センターの運営委員会というのを毎年2回行って、そこに校長会の代表やPTAの代表の方がそれぞれのところで持っている意見を吸い上げておりますので、一般的な給食に対しての意見はそこで聞くことができるのかなと思っています。7月26日に行った給食センターの第1回運営委員会では、今回のアンケートを想定することが、その時点で予想できておりましたので、年度途中でこのようなアンケートを取るということは、そこで一応了解を取って行っているところです。この点については、教育委員の皆様、また保護者の皆様の関心はすごく高いものだと思いますので、アンケートの集計の状況や次年度の給食費がどのような状況になるのかというのは、その都度分かり次第示していきたいと思えますし、教育民生常任委員等での説明を行って参ります。議会でもこのことは今後も随時質問はされるのかなと思います。そこで答えていくということで説明責任果たしていくつもりです。

ほかにございますか。この点についてはよろしいでしょうか。

それでは、学校給食について終わります。

その他(2) 令和6年度学校教育行政の重点について（ことばの力を育てる教育）

○教育長 (2)令和6年度学校教育行政の重点について、言葉の力を育てる教育について、事務局からお願いします。

学校教育課長。

○学校教育課長 (説明)

○教育長 重点項目のことばの力を育てる教育について、何かございましたらお願いします。

伊藤委員。

○伊藤委員 本市の教育行政の施策の第一のことは、私が教育委員になった時からなっているのですが、ことばの力を育てる教育にということで謳っていました。テキストが玄海を使って、学校でも一生懸命、例えば朝の特別な時間を使って、音読あるいは黙読をさせたりして、業間にも使ったりする学校もありましたし、私はかなり成果が上がっているような感じがします。数値に現れない子どもたちの、例えば読む力とか、声の大きさとか、本当に素晴らしいものはあるような感じがします。年度末に総括するのであれば、できれば、こういう素晴らしい政策をどこの市にも負けない、岩手県の中でやっているのであれば、是非成果と課題を出していただくと大変ありがたいなと思います。私自身が感じる今の一関市の子どもたちは、この施策に関してはかなり上向いた成果があるように私自身が感じています。ですから、是非その辺をお願いしたいなと思います。あくまでもできればの要望です。

○教育長 学校教育課長。

○学校教育課長 事業評価点検の時にも、内部評価としてご提示させていただいていますけれども、やっぱりこういう資料を広くお披露目する中にも、これまでの成果や課題というものがいい形で盛り込めるようにして参りたいと思います。ありがとうございます。

○教育長 ほかにございますか。

桂島委員。

○桂島委員 資料の半分から右側の一番下に、ことばのテキストの活用で8人の先人とあるのですが、この中に大槻磐溪さんが入らなかったのは何でなのかなと思ひまして。大槻三代と一関の駅前に銅像が3人並んで入っているのですが、漢学者だったから日本語と違かったのかなと思ひながら、これは作る段階のことなので、どうにもできないことはわかっているのですけれども、磐溪さんどうしちゃったのかなとちょっと思ったので。もし、何か知っていたら教えてほしいなと思ったのですが、後ほど何かの機会にお聞かせください。

○教育長 ことばのテキストに載せる先人と市の先人は別なのかなと思っておりました。ことばのテキストで、俳句だったり短歌だったり、詩だったり、あるいは文章だったりというところでの適切な部分と、別の分野での部分というのは大きいかなと思っております。たまたま今日、博物館の方で大槻家の人々というのを今度発刊されます。それにはちゃんと出ております。

桂島委員。

○桂島委員 漢学者だから、言葉なり関係するはずだけど、中学年だったり、高学年のところになにかのものがたまたまなかったのかな、教育長のおっしゃるとおり。そういうことなのかなとは思ったんですけども、ちょっと気になったので。

○教育長 今後の課題として考えてみたいと思います。

ほかにございますか。

大波委員。

○大浪委員 私が好きな図書行事の中にビブリオバトルがありまして、息子は小学校の時も中学校の時もビブリオバトルで自分が発表するのも好きでしたし、友達が発表した本を読むというのも好きで、家に帰ってもそういう話をよくしていたのも、今でも覚えているのですが、私も読書は好きですが、ある一定の作者に偏ってしまって、他の方から勧められた本に対してすごく興味を持って、読んでみようという気持ちに今でもなりますので、いろんな小学校を見て回っておりますが、今の子どもたちというのは、自分の意見を1年生だから言えないというものではなく、1年生でも2年生でも自分の意見というものははっきりと、自分はこう思っている、こう考えているということをしっかり言える子どもがすごく増えているので、ビブリオバトルを1年生から実施して、友達から本を勧められて読むというのは、読書の時間が年齢とともに下がってきているという結果になっていますが、やはり友達から教えられた本というのは、強く興味を引くのではないのかなと思うので、ビブリオバトルに関してはすごく推奨していてもいい行事ではないのかなと思っております。

そして思うことですが、読書という観念ですが、学校の図書館にあるものは良くて、うちの息子はライトノベルをすごくたくさん読むのですが、学校で読んでいと取り上げられると、なぜお母さんの読んでいる小説は良くて、自分が読んでいるライトノベルはダメなのかという質問をされるのですが、字を読むということは、たとえ漫画であっても、私はすごく習慣になっていけばいいものだと思うんです。漫画が悪い、ライトノベルが悪い、小説がいいという考えに至るのか。中学校3年生なんかはすごくライトノベルに没頭するような年齢でもあると思います。どこまでの範囲を読書と含んでいるのかというのが少し気になったので質問させていただきます。

○教育長 学校教育課長。

○学校教育課長 資料の一番上の段の市立図書館による学校図書館支援の中にもビブリオバトル出前授業という位置付けがございます。どちらかという学年上の子たちに対する指導に反映されていることが多いなと思っていました。取り組み方なんかは、情報収集しながら、図書館とのやり取りの中でも話題にしてもらおうと思います。

それからあとライトノベル、これは読書の冊数にカウントするのもしないのかという

のは、もしかすると学校によってまちまちである可能性はあるのかなと思っていました。ただ一方で、確かに図書館もたくさん飾りつけから何から、ものすごく図書委員会の委員の力、子どもたちの力を借りながら、非常におすすめなものとかそういうこともやっておりましたので、何を読んだらカウントされるのかっていう風な聞き方じゃなくて、いろんな本と巡り合っているかということを中心に、子どもたちに読書推進をしていきたいという思いは、学校とも共有していきたいと思います。

○教育長 私からの補足ですけれども、小中学校の学校の図書館に一定数の漫画の本は置いていると思います。歴史で読む漫画みたいのではなく、学習漫画的なものもあります。本の選定は学校の図書館担当等が行っているのです、目的を持って置いているものです。例えば学校の中で朝読書するような中学校とか設定した場合に、その時にどのような本をとというのは学校の考えも入るのかなと思います。一律に漫画本と言った時に、図書館にある漫画本もあると思いますし、家にある漫画本もあると思いますし、それによって全体がどういう影響になるかとか、様々なことを考えてことなのかなと感じているところです。

ほかにございますか。

佐藤委員。

○佐藤委員 先ほど伊藤委員が話されたように、私もこのことばの力を育てる教育は大変意義深く、成果も本当に少しずつ上がっているのではないかと思います。非常に児童生徒の取り組んでいる時の声の大きさとか、あと姿勢とか、本当素晴らしいなど。ここに姿勢作りなどの指導があるようですので、ここで目標にしている心の豊かさであるとか、言葉の感性、語彙の豊かさ、思考力、創造力、地域の誇り、こういったところが、これを通して、ことばの時間だけでなく、様々な授業等にも反映していけばなおいいのかなと思います。本当にこの素晴らしい一関の教育の最も大きな柱であるなということを、改めて説明で学ばせていただきました。

この読書の件で、読書量が小学校も、中学校も、県平均と市の平均は変わらないと見ていいのかなと思います。ことばの時間は小学校が主体で、中学校になると読書活動という形なのかなと思うのですけれども、この読書のあり方の中で、例えば読書会というような行事があって、読書会というのは、決められた本をみんなで読んで、それについて意見をみんなで交流するというような行事があって、そういう形もあってもいいのではないかなと思います。私の経験では何冊かの本を中学校1年生の時に、これは多分保護者の方の考えか、PTAか学校の考えで、全員、多分お金は保護者が負担して、手元に何冊かの文庫本があって、これが例えば石川啄木の一握の砂であったり、相沢忠洋という方の岩宿の発見というか、関東ローム層という地層の発見をした方で、自助伝のようなそういったもの。中学校1年生ですので難しかったのですけれども、その本をみんなで読んだり、例え

ば相沢忠洋さんですとなかなか地層の発見というのはお金にならない仕事なのですが、納豆売りをしながら一生懸命この発掘調査をしたとか、みんなその話を聞きながら、中学生の時にその時間をみんな共有できたということです。それから、高校生の時は夏目漱石のころころという本、これ国語の時間だったのですけれども、全員読んでテーマが2つぐらいあって、そのレポートを出すという、これまた難しいテーマだったのですけれども、確か高校3年生の時で、ころころを手に入れるのが結構大変で、同じ学年の人がころころを手になければいけないとことで、それでもみんなで取り組んで、その時に、友達とかとそのことを会話したりしたという記憶もあるわけです。それが1つの読書会、これ読書会ではないのですけれども、みんなで課題図書みたいなのを設定して、これを読んでみんなで話し合ってみようとか、さっきのビブリオバトルに近い考えだと思うのですけれども、そうやって読書を促すような行事で、そういったものもあると、それが読書感想文大会みたいな形にもなり得るかなと思いますので、中学生の場合が少し言葉の時間のボリュームが、小学生に比べてもう少しあってもいいのかなと思ったので、例えばそういったのはいかがかな いうことで、ご意見申し上げたところです。

○教育長 学校教育課長。

○学校教育課長 ご意見ありがとうございます。子どもたちの読書はこれからも推進していきたいと思いますので、様々な取り組みのあり方については、県南教育事務所の社会教育担当の方も定期的に研修会等やっていますので、今いただいた話も情報共有の中に含めて広げていきたいと思うところです。

○教育長 同じ本をみんなで読むというのは集団読書で、図書館によっては学校にはなかなかない場合、図書館からのセット貸し出しとか行っている場合がありますので、確認していきたいなと思います。

ほかにございますか。

伊藤委員。

○伊藤委員 私の同期の者が、保育園とか幼稚園に行つてボランティアで読み聞かせをしているそうです。それで読書とかことばに親しみをと。そういうところでも一生懸命やっている人がたくさんいます。ですから、ことばの力を育てる教育というのがすごく大事だと思うので、その辺りも大きな目を見ていただいて推進していただくとおありがたいなと思います。よろしくお願いします。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにございますか。よろしいでしょうか。

では4のその他の(2)ことばの力を育てる教育については終了いたします。

その他(3) その他

○教育長 (3)その他、皆様から何かございますか。

大浪委員。

○大浪委員 昨今の事件に関してですが、昨日、今日とすごく取り沙汰されていますが、闇バイトに中学生が加担していたということで、犯罪の低年齢化が非常に問題になっているということをニュースでも大きく取り上げてもらいまして、伊藤委員も私が教育委員になった時から、すごく家庭教育の重要さというものを説いていると思うのですが、私もそういう子どもに育ってしまったのは少なからず親に責任があるのではないか、スマートフォンを預けっぱなしにしている、そういう状況が家庭で少なからずあるのではないかということをしごく危惧しておりまして、やはり親子の関係がしっかりと構築していると、会話の中でそうならず済むことや、スマートフォンの扱い方に関してももう少し親子で話し合うことができたりするのではないか。例えば学校の中でも、スマートフォンの扱い方、犯罪の巻き込まれ方について講演などをしたり、親が聞いたりする機会というのはいくつもあると思うのですが、教育に熱心な家庭の方が進んで参加をされたりすると思います。しかし教育に関してあまり興味がなかったり、毎日の自分のことに忙しく、そこまで気が回らなくてしまうと、どうしても子どもに対しても時間を割くことができず、もしかして犯罪に巻き込まれてしまう、そういう事態になったりするのではないかなということをお心配しておりました。先日、佐々木成三さんの研修を受けた時ですが、なぜ自分は警察官を辞めて今の職業に就いたのかということに対して、子どもの時にきちんとした教育を受けさせることで犯罪に巻き込まれない、そういう人間に育てることができるのではないかと、思って今の職業に就いたということをおっしゃられておりましたが、そういう機会を事あるごとにポスターでも掲示をしたりして、常に子どもたちにこういうことをすると危険な目に遭うということをし、周知していくことというのは少なからずも大事なのではないかと、お心配しておりました。ここに来る間に、なぜ自分が犯罪に巻き込まれたのか。スマートフォンで闇バイトに登録したわけではない。何かのアカウントを売ってくれと言われたので、アカウントを売りました。そうしたら、それが使えなかったので、30万円払ってくれと言われた。払えないと言った。そしたらこういう仕事があるので、それをやって返してくれと言われた。その中で、誰かに相談する時というのはたくさんあったはずなのに、相談する場所、相談する相手がないから、最終的に犯罪まで行ってしまったっていうのもあると思います。どこまで教育で関わられるかというものはあるとは思いますが、やはりすごく家庭教育というものが大事だなと感じましたので、戻させていただきたいと思いました。

○教育長 ありがとうございます。

このことについて何かございますか。

学校教育課長。

○**学校教育課長** 本人が犯罪という自覚がなく巻き込まれている形というのは随分あるのかもしれない。実際、ニュースの見出しに中高生逮捕と出てきた時に、刑法は14歳以上が適用になるので、中学生に逮捕という言葉はそうやって見出しに乗るような形で使われるんだというので、私もつい最近のところで衝撃を感じたところでした。お家の方も相談できる、してほしいけれども、そうじゃない場合も踏まえた時に、やっぱり誰かに喋れないのかな、誰かに喋ってほしいなと強く思います。些細なことからも、それってダメなんじゃないのとか、それってまずいんじゃないのと言ってくれる、そういう仲間とか、大人の手が差し伸べられるには、やっぱり本人からの発信が必要だと思うので、やはりいろんな部分で、嗅覚というのか、感覚的なものでもいいので、今やっていることの違和感みたいなものを感じられるような、そんな社会経験がいっぱいさせてあげたいなと感じた事案でした。いいお話を頂戴しました。ありがとうございます。

○**教育長** 私からですけれども、こういう現代的な闇バイトとかそういうものが出た時に、それが犯罪になるとか、そのきっかけはどうしてなのか、情報モラルのことも含めて正しい知識を指導するということが重要だと思います。これは生徒指導連絡協議会とか学校と警察が連絡を取る機会があるので、この冬休みに向けての指導については、そういうことも盛られていくのかなと思います。学校の中で取り上げて指導するというのは当然ですけれども、もっと重要なのは学校の中で子どもたちを見ている時に、何か変だというのにどれくらいの感度で察知できるかという部分です。元気がないとか、何かあったのかなという事で察知することで未然に防いでいると考えております。そのような感性を持っていないと、どんなに取り上げて指導しても、こぼれていく部分があるのかなというところがあるので、今度11月に校長会議がありますので、この現代的な問題と、今のよう私の考えでの子どもたちを見ていくというところについては改めて取り上げていきたいと思えます。ありがとうございます。

ほかにございますか。

桂島委員。

○**桂島委員** 今のお話で、最近ニュースでもやっぱり取り上げられていたので、高校生の息子と話をして、こういうケースでこうなったらしいよと。だんだん聞いていくと、個人情報握られてそれを基に、犯罪に加担せざるを得ないとか、あと家族に危害を加えると言われて、もうどうにも追い詰められてというケースがあったらしいけどと話をして、もし自分が何かまずいと思うことに巻き込まれたら、またそんなことやってと親に言われるだろうなと思って隠そうとするんじゃないくて、大抵そういうのを隠すといいことにはならないで、どんどん悪い方向に行くから、その前に止めるためにも、どんなに怒られるか

もしれないと思っても必ず言いなさい。家族に危害がと言われても、お母さんは強いから大丈夫だから絶対言いなさいという話を最近もしたのですが、いろんなケースがある中で、学校でどこまで気づけるかという話ですけれども、それと同じ家庭でどこまで気づけるかというところもあるかなと思うので、ちょっとうちの息子が危なそうな、なんか悪巧みしているなというのは、やっぱり母親だとわかるものかな、そういうところなのかなというのを今のお話を聞いて思いました。

少し前に中学校のPTAの方々とあった時に、保護者から何かありませんかと言ったら、あるお母さんが子どもがスマホの時間がすごく長くて、学校で何とかしてくれませんかと言ったんです。なんて学校頼みだと思ったのですが、何も言いませんでしたが、あれ買い与えてやったのは親御さんではないのかとちょっと思いました。あとトイレを全部洋式にしてくれないかと小学校の時に言った保護者の方がいましたが、皆さんの家庭では大体洋式になってきているので、それに揃えてほしいということだろうなと思うのですが、もし出先で和式しかないところに遭遇して、和式の使い方わからなかったら、それでもう用を足せなくなると、結局その子が困ることになるのではないかなということもあるので、そういう時のために、一応使い方はわかっていた方がいいよというようにならないものかというのを心の中に留めたことを思い出しました。

○教育長 家庭との連携というところも大切に。

いきがづくり課長。

○いきがづくり課長 家庭教育については、前にも教育振興運動の中でというお話もさせてはいただいたのですが、社会教育事業は主に市民センターでやってきてはいるのですが、その中でやはり子どもの部分が、一番市民センターでも悩んでいるところです。今までは、学校区の中に市民センターがあって、そこで密接に関わりながら、学校と一緒に家庭教育の講演会をやりましょうという取り組みができていました。やはり統合が進んでその辺りがどのように取り組んでいったらいいかということで、市民センターでもかなり悩んでいるところです。市民センター独自で家庭教育学級を企画した際に多くの皆さんが参加できるかというのと、やはりそこは難しいのかなと思っておりますので、何かの集まりの機会に、一緒に家庭教育学級ですとか、講演会とかそういった取り組みをするのが、一番多くの方々に聞いていただける機会の確保になるのかなと思います。その中で、学校とはもちろんですが、未就学児というところになった時に、今幼稚園や保育園も統合となってきて、幼稚園にその地域の子どもが通うというわけではなくて、いろいろな地域から通うというようになっておりますので、そういった中で、子どもの検診などの機会を活用するなど、健康こども部との連携が必要になってくると考えているところです。

○教育長 ありがとうございます。そのほかよろしいでしょうか。

では、4のその他について終了いたします。

以上を持ちまして第 269 回一関市教育委員会定例会を終了いたします。ありがとうございました。